

# 都市再生整備計画

かどましふるかわばしえきしゅうへん  
門真市古川橋駅周辺地区(Ⅰ期)

おおさかふかどまし  
大阪府門真市

令和4年2月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	■

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	大阪府	市町村名	かどまし 門真市	地区名	かどましふるかわばしえんゆうへん 門真市古川橋駅周辺地区(Ⅰ期)	面積	110.5 ha
計画期間	令和 4 年度 ~ 令和 7 年度	交付期間	令和 4 年度 ~ 令和 7 年度				

目標

- 大目標:次世代の古川橋エリアにおけるwell-beingな暮らしの実現  
 目標1:官民の都市アセットを最大限に活用した賑わいの創出や回遊性の向上  
 目標2:密集市街地等の再生と併せてレゾリエンスの強化  
 目標3:幅広い世代や多様なニーズに対応可能な魅力ある空間とともに、教育、文化の振興や地域交流の活性を図ることができる「人が集まる」総合的かつ中心的な交流拠点を創出

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)

◆本地区の官民連携方策について  
 本地区において、土地区画整理事業等で整備された広場・道路等の利活用及び幸福東土地区画整理事業を契機としたまちの賑わいと交流の創出を地元組織である門真市幸福町・垣内町・中町まちづくり協議会が中心となりながら、より多くの関係者や新たな担い手を巻き込み、官民連携で取り組んでいくため、民間と行政が参画するプラットフォームを構築し、本地区のまちの将来イメージを共有する未来ビジョンの策定を令和3年度末に予定している。この未来ビジョンにおける目指す将来像の方向性として、本エリアの中心に整備予定の(仮称)市立生涯学習複合施設や交流広場並びに京阪電鉄古川橋駅周辺の土地区画整理事業により整備された駅前広場や都市計画道路等の公共空間を最大限に活用し、子どもから中高生、大人、お年寄りまで、近隣及び広域から集まる多様な人や団体が交流し繋がることで、新しい学びやコミュニティの創出、まちの新たな価値の創造を目指すとしている。特に、子どもを中心としたエリアマネジメントを実施することで、本公共空間を、子ども達の他者を受容する力と自律性を育むとともに子育て世帯の支えとなる場とし、エリア全体としても子ども達の自由な発想や活動に活力を得て、持続性の高いエリアマネジメント体制を構築する。さらにこの動きと連動し、駅前を取り巻く密集市街地において民間投資を呼び込み、街路や民間空地など官民のパブリック空間をウォークアブルな人中心の空間へと転換し、エリアリノベーションへとつなげていく。また、これらの取り組みと併せ、密集市街地におけるまちの防災性の向上、地域防災力の向上、防災拠点の形成により、レゾリエンスの強化を図り、居心地が良く歩きたくまちなかを形成し、エリア価値の向上を目指していく。

とりわけ古川橋駅北側においては、地域特性を活用しつつ、本市の玄関口にふさわしい、商業・業務、その他生活サービス、居住機能などの都市機能の集積とあわせて魅力と賑わいのある景観を形成する拠点として、高次都市施設の機能である生涯学習や文化・地域の交流等をはじめとする地域交流センター機能と誘導施設である図書館(図書館法第2条に基づく図書館)が複合した生涯学習複合施設を整備することにより、各機能の有機的な連携を行い、各種行政サービスの向上を図るとともに、ハード・ソフトが充実した魅力的な環境を整えていく。また、複合化することで、両施設の相乗的な利用促進効果を高め、更なる賑わいを創出させていく。

加えて、生涯学習複合施設を、空間的なゆとり、美しさ、うるおいを備えるとともに周辺環境と調和した地域景観のシンボルの役割を果たす市域の核となる施設とすることで、本市の都市イメージの魅力向上とともに、地域内外からの本エリアの来訪を促し、本エリアを起点に市域全体への賑わいの創出へつなげていく。また本エリアにおける両施設の周辺においても交流広場等を整備していくことで、「ゆとり」や「うるおい」を創出し、古川橋駅から生涯学習複合施設に通ずる連続した魅力的なまちなみを演出し、生涯学習複合施設を含む周辺の一体的なまちなみ形成・景観づくりを行っている。

さらに、本市における官民連携まちづくり方策として、これまでの従来の公共主導のまちづくりから新たな官民連携によるまちづくり事業を推進していくため、京阪電鉄古川橋駅周辺、門真市駅周辺及び西三荘駅周辺を「ウォークアブル推進エリア」と位置づけ、官民連携による「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を目指すとしており、本市は、国土交通省における「ウォークアブル推進都市」に応募賛同をしている。

今後、民間主導のまちづくりを支援するための規制緩和や手続等を提示した「(仮称)門真市公民連携まちづくりガイドライン」を令和3年度末に策定する予定であり、官民連携によるまちづくりを推進していく。

◆公的不動産の活用について  
 門真市公共施設等総合管理計画(平成28年12月策定)に基づく施設総量の適正化を図り、発生した余剰資産について、用途転用や民間事業者への貸付・売却なども考慮し、公的不動産の有効活用について検討を進めていくこととする。この検討に加え、地域交流センター機能と図書館の両施設を各々で新設するのではなく合築とすることで、維持管理費の縮減を図っていく。また、中学校の統合によって7つあった中学校を現在は6校としており、その学校跡地や土地区画整理事業及び住宅市街地総合整備事業により創出された市有地を最大限に有効活用し、整備を進めるほか、同地区内において、民間活力の導入等による都市機能の向上・集約化を図っていくことで、公共・公益サービス機能を充実し、都市魅力を向上させていく。

まちづくりの経緯及び現況  
 本地区については、門真市都市計画マスタープランの全体構想の将来都市構造において、地域の特性を活用しつつ、門真市の玄関口にふさわしい商業・業務・その他生活サービス・居住機能などの都市機能の集積と併せて、魅力と賑わいのある景観を形成する「中心拠点」に位置付けられており、また、地域別まちづくり構想において、地域づくりの目標として「魅力あふれる拠点に人々が集うまち」が掲げられている。

また、同プランの中で、本地区を含む北西部まちづくり整備ゾーンの都市づくりの方針として、京阪電鉄古川橋駅周辺については、「幸福町・垣内町・中町地区まちづくり」を核に、学校の統廃合や公益施設の集約化で空地となる市有地を最大限に有効活用するため、公園・広場の確保に努めるとともに、駅前周辺の商業及び市役所周辺の住宅系の土地利用を適切に誘導するとされている。

本地区を含む本市北部地域(163号以北)は、高度経済成長期の急激な人口増に伴い、道路等の基盤整備が整わないまま、木造共同住宅等が建設され、公園等の公共施設が少なく密集市街地が形成された。また、特に危険なエリアについて、平成24年10月に国において「地震時等に著しく危険な密集市街地」が設定され、古川橋駅北側においては、早急に密集市街地の改善が必要なエリアとなっている。このようなことから、解消に向けた整備アクションプログラムを策定し、面整備事業及び主要生活道路の整備、老朽木造住宅等除却補助と併せて、地区計画による防火規制の強化などのまちの防災性の向上や地域防災力のさらなる向上、エリアリノベーションによる空き家空き地の利活用などによる魅力あるまちづくりを目指している。また、中町地区においては、市庁舎や小中学校等の公共施設の再編により生み出される公有地を活用し、約2ヘクタールの防災機能を有する公園整備や市立総合体育館を設置し、本市の防災拠点整備を進めている。

さらに、駅北側に近接した立地や旧中学校跡地を有効活用し、商業・サービス機能・居住機能など複合的な都市機能や幅広い世代が交流可能な、市のシンボリックな公益施設となる生涯学習複合施設機能及び交流広場機能が一体となった魅力と賑わいのあるまちづくりの実現を図ることをめざしつつ、幸福東土地区画整理事業等を実施している。とりわけ、高次都市施設の機能である生涯学習や文化・地域の交流等をはじめとする地域交流センター機能と中心拠点誘導施設である図書館(図書館法第2条に基づく図書館)が複合した生涯学習複合施設整備を行うことにより、各機能の有機的な連携を行い、各種行政サービスの向上を図るとともに、ハード・ソフトが充実した魅力的な環境を整えていく。また、複合化することで、両施設の相乗的な利用促進効果を高め、更なる賑わいを創出させていく。

加えて、本エリアにおける両施設周辺の交流広場等を整備していくことで、「ゆとり」や「うるおい」を創出し、京阪古川橋駅から生涯学習複合施設に通ずる連続した魅力的なまちなみを演出し、生涯学習複合施設を含む周辺の一体的なまちなみ形成・景観づくりを行っている。

一方、当駅南側については、昭和末期に都市計画決定された土地区画整理事業により、都市計画道路や駅前広場の整備と併せて大型ショッピングセンターや業務ビルが建設され、これらは30年以上が経過し、まちの衰退化が進行しつつある。また、地区の南西部に隣接する大手企業工場跡地には、民間事業者による大型商業施設等の建設や大阪モノレール延伸が予定されており、今後本市を取り巻くまちの状況が大きな変化を迎える。

課題  
 ・国勢調査における本市の人口は、大正9年の第1回国勢調査以降、昭和55年を除き、平成2年まで一貫して増加を続けており、高度経済成長期の昭和40年の国勢調査では、人口増加率が約180%という全国一位の数値を記録したが、昭和55年の約143,000人をピークとして、横ばい傾向となり、平成2年以降は減少傾向となっている。また、近年の人口動向では、平成27年の国勢調査結果において、人口が123,576人となり、前回調査の平成22年から6,706人もの減少となり、大阪府内では43市町村中、6番目に高い減少率となっている。また、市民の消費行動については、市外に流出していることに加え、市内の既存商店街はシャッター通り化している箇所も見受けられ、賑わいが失われつつある。

・また、古川橋駅の周辺の実況の課題として、駅前に立地する商店街があるものの、空き家や空き店舗が多く存在するなどによる賑わいの低下に加えて、狭隘な道路や老朽化した木造賃貸住宅等が建ち並んだ密集市街地が形成されており、これらの状況から、市域全体に比べて高齢化率が高く、子育てファミリー層の流出の傾向がみられ、生産年齢人口の割合が減少し、高齢者人口の割合の増加による収入減少や社会保障費用などの支出増加、労働力や消費の縮小による地域経済の衰退が懸念される。とりわけ、古川橋駅南側においては、昭和末期に施行された土地区画整理事業により、都市計画道路や大型ショッピングセンターや業務ビル等が建設され、これらは30年以上経過し、まちの衰退化が進行しつつある。また、当駅南側の平成初期における公示地価は最高で1,600,000円/㎡であったが、現在の地価は245,000円/㎡となっており、大幅に下落している状況である。

・施設の状況においては、門真市駅周辺にある既存の市立図書館は、近隣の類似人口の都市との比較により、1人1人当たりの貸出点数や蔵書数が大きく下回っており、また専用の読み聞かせ室や団体活動のための自由に利用できる打ち合わせスペースが充足していない点が問題点としてあげられ、図書館サービスの向上が図りにくい状況にある。

・本地区に隣接する建設予定の大型商業施設開業に伴い、今後、多くの来訪者や住民による本地区からの往来が見込まれるため、これに対応したゆとりある歩行者空間の整備・充実が求められる。

将来ビジョン(中長期)

- ①門真市第6次総合計画(2020-2029)(令和2年度策定)
  - ・密集市街地解消を推進するとともに老朽化する公共施設等をはじめとするまちの基盤の再整備を行い、充実した都市機能と良好で快適な住まいと環境をつくる
  - ・「安全・安心で快適な住まいと環境のあるまちの実現」をめざす
  - ・人口減少・少子高齢化が進行する中で住み続けられるまちをつくるため、門真市駅及び古川橋駅周辺において、賑わいや生活利便性の向上、都市機能の誘導・集約を進める。
- ②門真市都市計画マスタープラン(2012-2021)(平成24年度策定・令和3年度改定予定)
  - ・地域の特性を活用しつつ、門真市の玄関口にふさわしい商業・業務、その他生活サービス、居住機能などの都市機能の集積と併せて、魅力と賑わいのある景観を形成する
  - ・魅力あふれる拠点に人々が集うまち
  - ・「幸福町・垣内町・中町地区まちづくり」を核に、学校の統廃合や公益施設の集約化で空地となる門真市有地を最大限に有効利用するため、公園・広場の確保に努めるとともに、駅前周辺の商業及び市役所周辺の住宅系の土地利用を適切に誘導する
  - ・土地区画整備事業など市街地開発事業により都市基盤施設の整備に努め、整備にあたっては、商業・業務・居住機能など複合的な都市機能の集積、官民連携による賑わい景観づくり、公共施設の再生に努める
- ③門真市立地適正化計画(2017-2021)(平成28年度策定・令和3年度改定予定)
  - ・都市機能誘導区域に位置付け
  - ・まちの顔としても機能する文化・生涯学習機能を誘導
  - ・市役所をはじめ大規模な商業施設などの重要な都市機能が集積しており、駅周辺機能と連携した生涯学習機能を誘導することにより、まちの顔づくりを進めることが最適と位置付け
- ④(仮称)古川橋駅周辺地区未来ビジョン(2022-2041)(令和3年度策定予定)
  - ・整備予定の生涯学習複合施設や交流広場並びに駅周辺の土地区画整理事業により整備された駅前広場や道路等の公共空間を最大限に活用し、多様な人や団体が交流し繋がることで、新しい学びやコミュニティの創出、まちの新たな価値の創造を目指す
  - ・まちの将来を担う子ども達を主役に、子ども達のやりたいこと、まちに対する働きかけを実現する仕組み「子どもエリマネチーム」を運営することで、持続性の高いエリアマネジメント体制を構築する
  - ・駅前を取り巻く密集市街地において民間投資を呼び込み、街路や民間空地など官民のパブリック空間をウォーカーブルな人中心の空間へと転換し、エリアリノベーションへとつなげていく

都市構造再編集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

【門真市立地適正化計画】(策定:平成29年3月)

本市の都市機能誘導区域においては、人口密度の高さなどから既に相当の都市機能が集積しているところであるが、各施設等の老朽化等により機能の低下が懸念されるところである。一部に網羅できていない都市機能もあるが、都市機能誘導区域それぞれの機能を全て備えるのではなく、コンパクトな市域というポテンシャルを活かしながら、各区域の連携を促し、市民生活を支えていくこととしている。

市内の鉄道駅のうち特にポテンシャルが高いと捉えられる駅の周辺を都市機能誘導区域と位置付け、まちの顔づくりを進めているところであり、本地区においては、古川橋駅周辺都市機能誘導区域と位置付けているところである。

当該都市機能誘導区域においては、都市機能の集積状況が最も高く、市民文化会館や市立文化会館をはじめとした文化施設が集積するなど、文化的なイメージが構築されつつある。これらのイメージをより強固なものとするため、全市民が利用できる生涯学習機能を誘導することとしている。とりわけ、市立文化会館においては、昭和43年に供用開始となった施設であり、老朽化が進んでいる状況となっており、また、時代のニーズに対応することが困難となっていることから、これに代わる施設を、図書館と複合化した生涯学習複合施設として整備し、都市機能の向上を図っていく。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

都市計画マスタープランにおいては、中心拠点として、京阪「門真市駅・古川橋駅」の2駅を一体の拠点として位置付けている。

本地区を含む各駅周辺(概ね半径500m圏内)は、既に多くの都市機能が集積しているが、一方で「まちの顔」としての機能が不足しているために、市民の消費行動が市外に流出しており、都市機能の強化によって市全体の魅力の向上を図る必要がある。

このことから、中心拠点誘導施設である生涯学習複合施設(図書館(図書館法第2条に基づく図書館))を学校跡地に整備することで、幅広い世代の関心を取り込んだ図書館資料が活用できるゆとりある滞在の場を創出することができることに加え、教育・文化・地域の交流等をはじめとする地域交流センター機能を複合化した施設とすることで、相乗的な利用促進効果の向上に寄与するとともに、「まちの顔」として、地域内外からの活発な交流拠点の形成が図られることになる。

また、本地区内において、土地区画整理事業及び住宅市街地総合整備事業により宅地の整形化を図るとともに、老朽建築物等の建替更新や交流広場、道路等の公共施設を総合的に整備するとともに、商業機能等の誘導を行い、民間活力の導入を視野に入れた一体的な整備を行っていることで、本地区の魅力の向上をはじめ、市域全体のイメージ向上や賑わいの創出に繋げていく。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

土地区画整理事業、住宅市街地総合整備事業、官民連携まちなか再生推進事業

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
イベントスペース等の重要度	%	市民アンケートによる「古川橋駅周辺の賑わいをさらに増やすために特に重要だと思う施設」について、「イベントができるスペース」と回答した割合(市民意識調査)	官民の都市アセットを活用した多様な人々の出会いや交流滞在による賑わいを創出する上で、必要なイベントスペース等の重要度を増加させる	17.8	R2	19.6	R7
歩行者通行量	人/12h	市道門真中央線における1日当たり歩行者通行量の合計人数(12時間)	ストリート空間を活用した魅力ある歩行空間の創出による歩行者通行量の増加させる	351.0	R3	421.0	R7
市民一人当たりの貸出点数	点/年	利用者の多様なニーズに対応するものとして、一般書、児童書、雑誌、AV資料等の市民一人当たりの貸出点数	多様なニーズに対応できる魅力ある拠点と判断できるよう、市民一人当たりの貸出点数を増加させる	2.74	H30	4.01	R7
地域交流センター利用者数	人/年	教育・文化・学習・地域の交流等の拠点として、各諸室利用を含む地域交流センター全体(市立文化会館)の年間延べ利用者数	教育、文化、地域交流の活性化を図り、「人が集まる」総合的かつ中心的な交流空間を創出することで、地域交流センターの利用者数を増加させる。	46,886	H30	56,421	R7

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【官民の都市アセットを最大限に活用した賑わいの創出や回遊性の向上】 官民の都市アセットを活用した多様な人々の出会い・交流、エリアリノベーションの展開による賑わいの創出や魅力あるストリート空間再整備による東西南北の回遊性の向上を図り、居心地が良く歩きたくなるまちなかを形成し、エリア価値の向上を目指す。</p>	<p>【基幹事業】(道路)歩行者空間再整備事業(市道門真中央線) 【基幹事業】(高質空間形成施設 緑化施設等)都市空間創出整備事業(市道門真中央線) 【基幹事業】(滞在環境整備事業 社会実験)エリア魅力向上推進事業(古川橋駅周辺) 【基幹事業】(滞在環境整備事業 コーディネート)エリア魅力向上推進事業(古川橋駅周辺) 【基幹事業】(誘導施設 教育文化施設)図書館整備事業(幸福町) 【基幹事業】(高次都市施設 地域交流センター)文化会館機能整備事業(幸福町) 【提案事業】(事業効果分析)事業効果分析調査事業 【関連事業】住宅市街地総合整備事業 【関連事業】幸福東土地区画整理事業 【関連事業】官民連携まちなか再生推進事業</p>
<p>【密集市街地等の再生と併せたレジリエンスの強化】 また、これら賑わい創出や回遊性の向上と併せた密集市街地におけるまちの防災性の向上、地域防災力の向上、防災拠点の形成により、レジリエンスの強化を図り、居心地が良く歩きたくなるまちなかを形成し、エリア価値の向上を目指す。</p>	<p>【基幹事業】(滞在環境整備事業 社会実験)エリア魅力向上推進事業(古川橋駅周辺) 【基幹事業】(滞在環境整備事業 コーディネート)エリア魅力向上推進事業(古川橋駅周辺) 【基幹事業】(誘導施設 教育文化施設)図書館整備事業(幸福町) 【基幹事業】(高次都市施設 地域交流センター)文化会館機能整備事業(幸福町) 【提案事業】(事業効果分析)事業効果分析調査事業 【関連事業】住宅市街地総合整備事業 【関連事業】幸福東土地区画整理事業 【関連事業】官民連携まちなか再生推進事業</p>
<p>【幅広い世代や多様なニーズに対応可能な魅力ある空間とともに、教育、文化の振興や地域交流の活性を図ることができる「人が集まる」総合的かつ中心的な交流拠点を創出】 幅広い世代の人で賑わう「駅前」立地という利点を生かし、教育、文化、地域交流を基軸としつつ、あらゆる分野に対応した総合的な施設として整備し、誰もが身近に利用しやすい交流空間をめざす。また、当該施設全体を地域景観のシンボリック役割を果たすとともに、周辺地域の良好なまちなみ形成・景観づくりを先導し、「まちづくりの核」としての役割を担いつつ、市民の関心を寄せる市の中心的な拠点をめざす。 また、時代のニーズ、幅広い世代に応じた多様なニーズに対応し、先導的な拠点整備を行うとともに、利用者同士の交流を活性化させていく仕掛けや書籍等の学習資料を充実させ、学習活動環境の充実を図っていくことで地域内外から関心を寄せる魅力ある拠点整備を行っていく。</p>	<p>【基幹事業】(誘導施設 教育文化施設)図書館整備事業(幸福町) 【基幹事業】(高次都市施設 地域交流センター)文化会館機能整備事業(幸福町) 【提案事業】(事業効果分析)事業効果分析調査事業 【関連事業】住宅市街地総合整備事業 【関連事業】幸福東土地区画整理事業 【関連事業】官民連携まちなか再生推進事業</p>
<p>その他</p>	
<p>【関連事業の取り組み】</p> <p>■ 古川橋駅北地区のまちづくり(住宅市街地総合整備事業) 本地区を含む本市北部地域(163号以北)は、高度経済成長期の急激な人口増に伴い、道路等の基盤整備が整わないまま、木造共同住宅等が建設され、公園等の公共施設が少なく密集市街地が形成された。また、特に危険なエリアについて、平成24年10月に国において「地震時等に著しく危険な密集市街地」が設定され、古川橋駅北側においては、早急に密集市街地の改善が必要なエリアとなっている。このようなことから、密集市街地解消に向けた整備アクションプログラムを策定し、面整備事業及び主要生活道路の整備、老朽木造住宅等除却補助と併せて、地区計画による防火規制の強化などのまちの防災性の向上や地域防災力のさらなる向上、エリアリノベーションによる空き家空き地の利活用などによる魅力あるまちづくりを目指している。</p> <p>■ 中町地区のまちづくり(住宅市街地総合整備事業及び土地区画整理事業の合併施行) 市庁舎等の公益施設の北側には、民間用地の密集市街地が形成されており、密集市街地の改善を目的とした住宅市街地総合整備事業と土地区画整理事業の合併施行により市庁舎等の公益施設や地区内権利者の老朽建築物等除却及び公共施設用地の買収、道路・公園等の基盤整備を実施し、また、民間の共同住宅等の耐火建築物の建設、中学校の統合によるはずはな中学校建設、防災機能を有する市立総合体育館が整備済みである。 今後、市庁舎の建設や約2haの防災機能を有する公園の整備を予定しており、市庁舎機能、学校教育機能や防災機能を有する体育館と連携した防災拠点を形成することにより、本市の広域防災拠点機能の確立を目指し、災害に強いまちづくりを実施する。また、公園利用者の利便の向上や「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成を目指し、官民連携による交流・滞在空間の創出を図る。</p> <p>■ 幸福町・垣内町地区のまちづくり(住宅市街地総合整備事業及び土地区画整理事業の合併施行) 旧第一中学校跡地北側には、狭隘な道路に老朽化した木造賃貸住宅等が集積し、密集市街地が形成されており、当地区を含む古川橋駅北地区は、「地震時等に著しく危険な密集市街地」に位置付けられ、早急に密集市街地の改善が必要な区域となっている。このことから、密集市街地の解消を目的とした住宅市街地総合整備事業(門真市施行)及び公共施設の再配置や宅地の整形化を目的とした土地区画整理事業(組合施行)との合併施行により、老朽建築物等の建替更新や道路・公園等の公共施設整備を実施している。また、旧門真市立第一中学校跡地を含む門真市幸福東土地区画整理事業区域内においては、生涯学習複合施設の建設、交流広場等の公共施設を整備する予定であり、あわせて市有地を活用した民間施設の建設を予定している。なお、当該区画整理事業区域を含む京阪電鉄古川橋駅周辺エリアについては、本市の顔となる中心拠点であることから、複合施設と交流広場等をまちの核として位置づけ、多様な学びを通じた人と人との出会いや新たなにぎわいが生まれる場となるよう、官民連携の手法によるまちづくりを推進していくこととしている。</p> <p>■ 古川橋駅周辺におけるエリアマネジメント(官民連携まちなか再生推進事業) 京阪電鉄古川橋駅周辺において、土地区画整理事業等で整備された広場・道路等の利活用及び当該駅北側のまちづくりを契機としたまちの賑わいと交流の創出を、官民連携で取り組んでいくため、より多くの関係者や新たな担い手を加え、実施体制を強化・再構築するとともに、まちの将来イメージを共有する未来ビジョンの策定に向けた取組みを行うことを目的に、まちづくり協議会と本市の構成メンバーによりエリアプラットフォーム検討会(以下、「本検討会」という。))が結成している。 今後、本検討会は、当地区におけるエリアマネジメント活動を検討するにあたり、地域が主体となり、官民の様々な人材が集結する組織((仮称)古川橋駅周辺地区まちなか再生推進協議会(以下、「当推進協議会」という。))へと再構築を予定されている。当該組織では、エリアの将来像明確にしたビジョンの策定やビジョンを実現するための自立・自走型システムの構築に向けた検討や取組を行う予定としており、これらを通じて、多様な人材の集積や投資を惹きつける都市の魅力・都市間競争力の強化をめざすとしている。 この官民連携まちなか再生推進事業を活用し、古川橋駅半径500mの区域におけるエリアプラットフォームの再構築や未来ビジョンの策定を予定しており、未来ビジョンの方向性としては、古川橋駅周辺において、土地区画整理事業で整備された広場・道路等の利活用及び幸福東土地区画整理事業を契機としたまちの賑わいと交流の創出を、まちづくり協議会が中心となりながら、より多くの関係者や新たな担い手を巻き込み、官民連携で取り組んでいくため、民間と行政が参画するプラットフォームを構築し、本エリアのまちの将来イメージを共有する未来ビジョンを策定するとしている。また、ビジョンの方向性として、本エリアの中心に整備予定の交流広場並びに古川橋駅周辺の土地区画整理事業により整備された駅前広場や都市計画道路等の公共空間を最大限に活用し、子どもから中高生、大人、お年寄りまで、近隣及び広域から集まる多様な人や団体が交流し繋がることで、新しい学びやコミュニティの創出、まちの新たな価値の創造を目指すとしている。特に、子どもを中心としたエリアマネジメントを実施することで、子ども達に他者を受容する力と自律性を育みながら、子育て世帯の支えともなり、エリア全体としても子ども達の自由な発想や活動に活力を得て、持続性の高いエリアマネジメント体制を構築する。さらにこの動きと連動し、駅前を取り巻く密集市街地において民間投資を呼び込み、街路や民間空地など官民のパブリック空間をウォーカーブルな人中心の空間へと転換し、エリアリノベーションへとつなげていくとしている。</p>	





門真市古川橋駅周辺地区(Ⅰ期)(大阪府門真市)

面積 110.5 ha 区域 門真市中町、幸福町、浜町、柳町、末広町、速見町、城垣町、石原町、大倉町

